

# 女子 2年連続の総合優勝



全日本学生ローラースピード選手権10月4〜6日、長野県・千曲川リバーフロントスポーツガーデン

スピードとホッケーの2部門で大学日本一を決めるこの大会。女子は両部門で1位に輝き、2年連続で総合優勝を達成した。

## スピード ホッケーとも堂々1位

スピード部門では高萩(文1・光丘高)がウインターから失点してしまっても、積極的な攻めを300メートルタイムレースでトップ。1600メートルも高萩を中心に他チームを寄せ付けず1位を飾った。

ホッケー部門はトーナメントを順当に勝ち上がり、決勝で國學院大と対戦

後半開始早々にカヌー(文1・光丘高)がウインターから失点してしまっても、積極的な攻めを300メートルタイムレースでトップ。1600メートルも高萩を中心に他チームを寄せ付けず1位を飾った。

ホッケー部門はトーナメントを順当に勝ち上がり、決勝で國學院大と対戦

3連覇を目指した男子はスピード部門で1位となるも、ホッケー部門は決勝戦で立教大に0-1で敗れて2位。総合2位で大会を終えた。植木晃太郎主将(文4・巻高)は「チーム、個人ともに力が足りなかった。悔しい」と話した。(村山)

## 男子は2位



最優秀GK賞を受賞した中尾

専大はベスト8に入り、10月27日に行われる全日本学生剣道優勝大会の出場権を獲得した。

7人制の団体戦で、より多く一本を取った方が勝ちとなる。

順調にトーナメントを勝ち上がり、4回戦で立

## 8強入りで全日本学生へ

関東学生剣道優勝大会11月9日、神奈川県・とどろきアリーナ

専大はベスト8に入り、10月27日に行われる全日本学生剣道優勝大会の出場権を獲得した。

7人制の団体戦で、より多く一本を取った方が勝ちとなる。

順調にトーナメントを勝ち上がり、4回戦で立

教大と対戦。大将戦を終えて2-2と、代表戦にもつれ込む白熱の展開となったがこれを制した。準々決勝で中大に敗れたものの森光聖主将(経営4・福岡大附属大濠高)は「目標の優勝には届かなかったが、チーム一丸となって勝ち上がることができた。次につながる良い試合ができた」と振り返り、全日本学生に向けて「一人一人が力

## 12戦終え8勝



得点源としてチームをけん引する西野

男子は開幕6連勝とスタートダッシュに成功した。その後、青学大、東海大、筑波大に連敗を喫したが、法大に84-67で勝利。大東大戦(76-90)、日大戦(98-63)を終え、12戦8勝で4位につけている。

チームのトップスコアラー・西野曜(経済3・近畿大学附属高)を中心に

男子は開幕6連勝とスタートダッシュに成功した。その後、青学大、東海大、筑波大に連敗を喫したが、法大に84-67で勝利。大東大戦(76-90)、日大戦(98-63)を終え、12戦8勝で4位につけている。

チームのトップスコアラー・西野曜(経済3・近畿大学附属高)を中心に

10月には生田キャンパスでホームゲームが行われる。優勝を目指すバスケットボール部に大きな声援を送ってほしい。

◇ 関東大学女子バスケットボールリーグ戦は8戦を終え、1勝7敗で6位と厳しい戦い。ステイールランキング3位をはじめ、得点、アシスト、リ

12校によるリーグ戦。折り返しの第6戦で駒大に勝利し、2勝4敗でホームゲームを迎えた。増田宏入(経済1・東山高)のクイックな攻撃のパートナーを増やし、ホームの声援を受け健闘したが1位の早大、7位の中大に連敗を喫した。

第8戦を終え10位(2勝6敗)と苦戦が続く。次戦(10月19日、東海大戦)に向け、「有効に時間を使い、調整、準備に磨きかける」と東拓巳主将(経営3・開智高)は「このからの巻き返しを期待したい。」(馬場夏実・経営2)

2部復帰後最初のリーグ戦は2勝7敗の7位で残留となった。序盤は5連敗と苦戦したが、強豪校との対戦を通じ、力を磨くシーズンとなった。

阿部耕平主将(経済3・昭和第一高)は「2部の壁を痛感したが、試合ごとに課題を見つけ、改善することができてい

大との最終戦を3-8で落とし、勝ち点を逃した。リーグ戦は4勝6敗の勝ち点1で4位という結果に終わった。

最終戦で2打点を挙げた上野滉平主将(商4・県立岐阜商高)は「最後の試合だったのでベンチの皆に心えたかった」と語った。また後輩に向けて、「自分たちらしい野球をしてほしい」とエールを送り、全日本大学選手権出場を託している。

(八代哲・経済3)

1勝1敗で迎えた国士

最終戦敗れ4位

東都大学準硬式野球秋季リーグ戦・最終戦10月7日、八王子市・上柚木公園野球場

7位で2部残留

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦(2部)11月8日31日〜9月29日、関東学院大学学文庫キャンパス体育館ほか

2部復帰後最初のリーグ戦は2勝7敗の7位で残留となった。序盤は5連敗と苦戦したが、強豪校との対戦を通じ、力を磨くシーズンとなった。

阿部耕平主将(経済3・昭和第一高)は「2部の壁を痛感したが、試合ごとに課題を見つけ、改善することができてい

国際大会 出場選手

成田琉夏(文1・聖霊女子短大付属高) アジアU23選手権(10月23〜28日、タイ・バンコク市) ※日本代表



攻撃の起点となった阿部主将(駿河大戦)